

# 日本の名文20

参考①高村光太郎「智恵子抄」新潮文庫

②吉本隆明全著作集8「作家論」

たかむらこうたろう ししゅう  
高村光太郎 詩集

あなたはだんだんきれいになる

あどけない話 はなし

おんがが附属品をだんだん棄てる  
とどうしてこんなにきれいになるのか。

ちえこ とうきょう  
智恵子は東京に空が無いといふ、

ほんとの空が見たいといふ。

とし あらわ  
年で洗はれたあなたのからだは

わたし おどろ  
私は驚いて空を見る。

むへんぎい と てん きんぞく  
無辺際を飛ぶ天の金属。

さくらわかば あいだ あ  
桜若葉の間に在るのは、

み がいぶん は  
見ても外間もてんで歯のたたない

き き  
切つても切れない

なかみ せいれつ い  
中身ばかりの清冽な生きものが

むかしなじみのきれいな空だ。  
どんよりけむる地平のぼかしは

い うじ いやく  
生きて動いてきつさつと意慾する。

うすも色の朝のしめりだ。

お お と  
をんながをんなを取りもどすのは

ちえこ とお み  
智恵子は遠くを見ながら言ふ。

こ せいぎ しゆぎょう  
かうした世紀の修業によるのか。

あたたらやま やま うえ  
阿多多羅山の山の上に

だま た い  
あなたが黙つて立つてゐると

まいちで い あお そら  
毎日出てゐる青い空が

とぎどぎないしん  
まことに神の造りしものだ。

ちえこ  
智恵子のほんとの空だといふ。

ときどぎないしん  
時時内心おどろくほど

そら はなし  
あどけない空の話である。

あなたはだんだんきれいになる。

高村光太郎（たかむらこうたろう）

一八八三年（明治一六年）～一九五六年（昭和三二年）。日本の詩人・歌人・彫刻家・画家。

「智恵子抄」について

光太郎自身が、智恵子によって、デカダンスの生活から立ち直れたと語っている。「智恵子抄」は、「あなたはだんだんきれいになる」といった、妻への手放しの美化や、静かな妻との語らいを切り取ったような「あどけない話」など、愛の詩集として、長い間親しまれてきた。一見、そこには穏やかな夫婦の時間が流れている。けれども、同時に光太郎は、いくつかの詩で、妻の狂気を捉えている。「もう人間であることをやめた智恵子」「足もとから鳥がたつ 自分の妻が狂気する」というぎりぎりの表現が、この詩集には併存する。

智恵子の自殺未遂、智恵子の実家の破たんなどを機に、智恵子が統合失調症を患い、基盤を持たない生活は危機を迎えた。智恵子の異常な行動が連続していた。吉本隆明は、この状態を次のように書いています。

「実生活上のリアルな破産と、詩作品上の完璧な美化とのあいだには、高村の内的な世界のぞっとするような交換反応があり、そこはたれも覗きみようとしないこの詩人の巨大な『ばけもの』がうごめいている」。

詩に現れた美しい愛の表現の背後に、過酷な日常の営みが貼りついていて、表現された言葉は、背後にいつも語りえぬ意味を隠していることになる。人は、時として、そこに人間精神の深い淵を覗き込むことになるだろう。同時に、美しい言葉で表現することで、耐え難い現実を持ちこたえることはありうるのではないかと、考えさせられる。